令和７年１１月２８日
（2025 年）

保護者のみなさまへ

吹田市立藤白台小学校
校 長　速 水　素 子

令和７年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9 月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１　教科に関する調査の分析

●国語《概要》

・本校の国語全体の正答率は、全国値より上回る結果でした。また、どの領域でも全国値を上回っていましたが、その中でも「書くこと」の領域が最も正答率が高く、「読むこと」の領域が低い傾向がみられました。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

言葉の特徴や使い方に関する事項

・「漢字をつかって書き直すこと」については、全国値を上回っていました。

情報の扱い方に関する事項

・「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」については、全国値を上回っていました。

我が国の言語文化に関する事項

・「時間の経過による言葉の変化、世代による言葉の違いに気づくこと」は全国値を上回っていました。

話すこと・聞くこと

・「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること」「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」は、全国値を上回っていました。一方で、「目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりしながら伝える内容を検討すること」は、正答率は全国値を上回っているものの、数値的には他の問題に比べると課題がありました。

書くこと

・「書く内容の中心を明らかにして、段落の内容を吟味しながら文章の構成を考えること」「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」「目的や意図に応じて書き表し方を工夫すること」は全国値を上回っていました。

読むこと

・「事実と感想、意見などとの関係を、叙述をもとにおさえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」「文章や図表などから、目的に応じて必要な情報を見つけること」については、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

●国語科における成果と今後の改善点について

本校では「話すこと・聞くこと」に焦点を当てて国語科で授業研究に取り組んでいます。今年度の国語科の結果は「話すこと・聞くこと」だけでなく、「書くこと」においても成果が出た結果となりました。一方で「読むこと」については全国値と比べるとよくできた結果でしたが、数値的にみると正答率が低く課題がみられました。また、「読むこと」の記述式の問題では、全国的な傾向と同様に無回答率が高くなっていました。これらのことを踏まえ、今後の改善点を以下にまとめます。

○これまでと同様に「話すこと・聞くこと」の力をつけるために、目的に応じて自分の考えや伝えたいことを文章にまとめる学習を進めます。
○文章だけの連続型テキストではなく、図や表と組み合わせた非連続型テキストについても、国語科だけでなく社会科など他教科の授業でも取り扱い、読み取りの経験を増やします。
○非連続型テキストの表や図を読み解きながら、目的に合わせて必要な情報を見つけ、条件に合わせて書く練習をしていきます。
○説明文などで、叙述をもとに文章全体の構成を捉えて要旨を把握する学習を、これまで同様進めていきます。

学校質問紙での「国語は好きですか」という質問では「好き」と回答した肯定群が全国値をやや上回っているのに対し、「国語の学習は将来役に立つか」という質問では、「役に立つ」と考えている肯定群が全国値より下回る結果でした。上記の改善点に加え、国語の学習を子どもたちの生活と結びつけた取組を増やし、現在の生活や将来に役立つ実感をもてるような授業を目指したいと考えています。

●算数《概要》

本校の算数全体の正答率は、全国値より上回る結果でした。また、どの領域でも全国値を上回っていましたが、その中でも「数と計算」の領域が最も正答率が高く、「測定」の領域が低い傾向がみられました。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

・「棒グラフから項目間の関係を読み取ること」「資料から必要な情報を選び、式にして計算すること」「分数の計算をすること」については全国地を上回っていました。
・「分数の加法について、共通する単位分数いくつ分かを数や言葉で記述すること」については、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

図形

・「コンパスを用いて平行四辺形を作図すること」「台形の意味や性質について理解すること」「角の大きさについて理解すること」については全国値を上回っていました。
・「基本図形に分割することのできる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述すること」については、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

測定

・「はかりの目盛を読むこと」については、全国値を上回っていました。

変化と関係

・「伴って変わる2つの数量の関係に着目して必要な数量を見出すこと」「『10％増量』の意味を理解し、増量後の量が増量前の何倍になっているかを表すこと」については、全国値を上回っていました。
・「伴って変わる2つの数量の関係に着目し、知りたい数の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること」については、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

データの活用

・「棒グラフから項目間の関係を読み取ること」「表から条件に合った項目を選ぶこと」「伴って変わる2つの数量の関係に着目して必要な数量を見出すこと」については、全国値を上回っていました。
・「目的に応じて適切なグラフを選択し、出荷量の増減の理由について言葉や数を用いて記述すること」については、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

●算数科における成果と今後の改善点について

どの領域の問題も本校の正答率は全国値より上回っており、これまでの算数の学習の成果が出ていました。一方で正答率の低さで見ていくと、記述式の問題で低い傾向がみられ、特に思考・判断・表現力が問われる問題に課題がみられます。また、今年は様々な領域にまたがった問題が多く出題されていました。これらのことを踏まえ、今後の改善点を以下にまとめます。

○算数の授業では、これまでと同様に、疑問や課題をクラス全体で共有します。子どもたち一人ひとりの「考えたい」という思いを引き出すような授業をめざします。
○子どもたちの多様な考え方を大切にして、子どもが課題に対して「自分で解決したことを伝えたい」という意欲を持てるようにします。
○子どもが自分の考えを式や数、言葉を使って記述し、説明する場面を作ります。
○正答にとらわれず自分の考えを述べる機会を増やし、無回答率の減少に取り組みます。
○社会科や理科、総合的な学習など他教科でも、算数で身につけた力を発揮できるようにします。生活場面での課題解決のために、情報を集めたり、取捨選択をしたりして、それらを表やグラフに表す機会を設けます。
○引き続き、考える力や伝える力を育てる授業を目指すと同時に、各単元で知識・技能を振り返る機会をつくるようにします。

●理科《概要》

本校の理科全体の正答率は、全国値より上回る結果でした。また、どの領域でも全国値を上回っていましたが、その中でも「地球」を柱とする領域が最も正答率が高く、「エネルギー」を柱とする領域が低い傾向がみられました。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「エネルギー」を柱とする領域

・「電磁石の強さは巻き数によって変わること」については全国値を上回りました。
・「身の回りの金属が電気を通すかどうか、磁石に引き付けられるかどうかわかること」「電気の回路の作り方を実験の方法を発想して表現すること」「乾電池の直立つなぎについて理解すること」は、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

「粒子」を柱とする領域

・「海の氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に、海の氷の面積が減少した理由を予想すること」「水は温まると体積が増えることを根拠に、海水面の上昇について理由を予想し表現すること」については、全国値を上回りました。
・「水の温まり方についての実験や観察が適切だったか検討し表現すること」については、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

「生命」を柱とする領域

・「花のつくりや受粉についての知識」「顕微鏡についての知識」「発芽の条件をもとに実験の方法を発想して表現すること」については全国値を上回りました。
・「発芽の実験結果から、分析・考察して新たな問題を見出して表現すること」については、正答率は全国値を上回るものの、数値的には他の問題と比べると課題がありました。

「地球」を柱とする領域

・「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いの実験について、予想したり分析したり考察したりすること」「水の蒸発についての知識や水の結露についての知識」「氷が解けて水になり海に流れていくことの根拠を、既習事項と関連付けて考えること」については、全国値を上回りました。

●理科における成果と今後の改善点について

全体的には全国値を上回りこれまでの成果が出たといえる結果でした。しかし本校でも全国的にも、思考・判断・表現を伴う問題の正答率が低い傾向があります。また、実験結果の考察にかかわる問題でも正答率が低い傾向があります。これらのことを踏まえ、今後の改善点を以下にまとめます。

・理科の授業では、できるだけ児童にとって魅力的な実験を行い、児童が直接実験結果から考えたり予想したりする場をもつようにします。
・低学年の生活科も含めて、学年を問わず観察や実験をする目的を明確にして、児童に意識させるようにします。
・理科の実験の流れ（課題→予想→実験→考察・まとめ）の中で、考察にあまり時間をかけられていない現状から、実験結果の考察を自分で書く時間をしっかり設けるように改善します。

２　生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

（１）学習環境・生活環境について

家庭生活について

・「朝食を食べているか」「決まった時間に起きているか・寝ているか」といった基本的な生活習慣については、80～90％の肯定群がいました。
・「学校の勉強以外に塾の先生や家庭教師の先生に教わる時間」については、3時間以上、2時間以上と回答した児童が全国値より多く、4割を超えていました。

学校生活について

・「学校に行くのは楽しい」と肯定的にとらえている児童は、8割を超えていますが、全国値と比べると低く課題が見られました。
・「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と肯定的に回答した児童は87％で、全国値とほぼ同じぐらいでした。
・「困りごとがあるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については、肯定群が63％と全国値と比べて少なく課題が見られました。

学習について

・「授業では友だちや周りの人の考えを大切にして、協力して課題の解決に取り組む」と肯定的に回答している児童は80％を超えていますが、全国値に比べると少なく課題が見られました。
・「PCやタブレットを使って学校の学習で活用すること」「PCやタブレットで自分ができるスキルを活用すること」の質問では、全国値より高い傾向がありました。
・「PCやタブレットを使って友だちと考えを共有すること・協力して学習を進めること」については、75～80％でしたが全国値を下回り課題が見られました。

自分自身について

・「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童は87％で全国値とほぼ同じぐらいでした。
・「人が困っているときは進んで助けている」と肯定的に回答した児童は90％と多い結果でしたが、全国値と比べるとやや少ない結果でした。
・「いじめは絶対によくない」と思っている児童は51％、肯定群全体でも9割を切る結果でした。場合によってはいじめもやむを得ないと思っている否定群が、1割を超える結果でした。
・「友だち関係に満足している」と肯定的に回答した児童は、86％と全国値を下回っており、強い肯定も全国値を下回っていました。
・「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した児童は、67％で全国値を下回っていました。

●分析と考察、今後の改善点について

本校の児童の回答は、全体的に強い肯定が少ない傾向にありました。肯定群が９割を超えるような場合でも、強い肯定は全国値を下回る傾向がありました。強く肯定できない自信のなさのようなものも感じます。それらを踏まえて、以下のように改善点をまとめました。

・**家庭生活について**は、家庭で基本的な生活習慣を意識して過ごしている様子がうかがえます。一方で、学習塾などの時間が長い児童も多くみられました。児童が長くストレス下にあると、反動として問題行動が現れる場合もあり、学校もこの傾向をしっかり認識して、家庭と連携して児童を見守っていきたいと思います。

・**学校生活について**は、多くの児童が、学校が楽しく先生からも認められていると思っています。しかし、困ったことを学校で相談するのは６割ほどで、学校で起こったことを家庭で訴える傾向がある現状と一致しています。こうした傾向は学校での対応が遅くなるばかりか、関係児童が時間の経過で忘れてしまうことも多く、対応に時間がかかるケースも少なくありません。先生がいつもにこやかにして児童に対応できる余裕をつくること、相談しやすい雰囲気をつくること、教室が児童にとって心理的安全性のある安心できる場所にしていくことなどを心がけていきます。

・**学習について**は、個人でタブレットを活用することやそのためのＩＣＴスキルについては自信を持っていることがわかりました。一方でタブレットを活用し、友だちと協力して学習することについては、自信のなさが見えます。普通の授業でも一定数の児童が友だちとの協同について消極的な回答をしています。普段の授業の中でつながりを意識した授業を行い、友だちと協同して行う課題解決に取り組むようにしていきます。

・**自分自身について**は、自己肯定感は決して低くはないのに、友だち関係に100%満足している層が少ないのが気になります。人間関係を切り開く力を身に着ける必要はあるとは思いますが、学校でも意識してより多くの友達とかかわる取組や、児童が自己開示して楽しみながらお互いの理解を深めていける取組(例えばゲーム・クイズ・スポーツ等)をしていきます。また、どんな場合であってもいじめは絶対にゆるされないというメッセージを明確にしながら、今後もいじめ予防授業や道徳の授業、普段の取組を進めていきます。いじめ予防プログラムに示されている「シンキングエラー」や「アンバランスパワー」を実生活でも意識させながら、自分の行動を変えられる児童を育てていきます。また、地域とのかかわりの希薄さも見られるため、低学年の生活科、社会科、総合的な学習の時間を通して、藤白台地域の魅力を感じられる取組をして工夫していきます。また、地域とのかかわりは家庭の協力が不可欠です。家庭とも連携していきながら、地域を愛する子どもの育成に努めます。

３　おわりに

本校の児童は家庭の協力もあり、国語や算数、理科といった教科学習については、どの教科でも全国値を上回っており、これまでの成果が見られます。児童質問紙では、楽しく学校生活を過ごしている児童が多い一方で、周囲の期待とプレッシャーにストレスを抱えながら、何か起きても学校ですぐに相談できず、友だち関係にも不満を抱えながら、他者とのつながりに消極的な児童もいることがわかりました。

学校では今回の結果をもとに、改善点を踏まえながら、教職員一同、より質の高い教育活動を目指し、精進してまいります。ご家庭とは、ともに教育に携わるパートナーとして、同じ目標を共有しながら、協力してまいりたいと考えています。

どうぞ、引き続きご理解ご協力をよろしくお願いいたします。